



Microsoft 365連携

～ スケジュール同期連携 ～

セットアップガイド



※ 本書は、「desknet's NEO V8.6 R1.x」以上をご利用の方向けのドキュメントとなります。



01	はじめに	<u>3</u>
1.	概要	<u>3</u>
2.	前提条件	<u>3</u>
3.	本書の対象者	<u>3</u>
4.	注意事項	<u>4</u>
5.	登録商標	<u>4</u>
02	管理者による事前準備	<u>5</u>
1.	Microsoft 365連携 設定の流れ	<u>5</u>
2.	設定用のオプションメニューの作成	<u>6</u>
3.	初期設定を行う	<u>7</u>
4.	スケジュールの同期設定を行う	<u>21</u>
5.	ユーザー毎のスケジュールの同期設定を行う	<u>23</u>
6.	ユーザー向け設定用のオプションメニューの作成	<u>25</u>
7.	設備の連携設定を行う	<u>26</u>
8.	Microsoft 365関連のメニューを追加する（任意）	<u>28</u>



01

はじめに

1. 概要

Microsoft 365連携とは、Microsoft 365のアカウントとdesknet's NEOのアカウントを紐づけることで、Microsoft 365のOutlook「予定表」とdesknet's NEO「スケジュール」を同期する連携機能です。

その他、desknet's NEO ログイン画面に表示される【Microsoft 365でログイン】ボタンからログインいただく事により、ポータルメニューに配置（任意）した各Microsoft 365アプリケーションにシングルサインオン(OAuth認証)いただく事も可能となります。

本書では、連携時の前提条件や注意事項と、グループウェアの管理者による設定の手順について説明します。

2. 前提条件

Microsoft 365連携をご利用いただくには、下記の前提条件がございます。

- Microsoft 365連携を行うには、「**Microsoft Entra ID (Azure AD)**」と「**Exchange Online**」の両方が使用可能である必要があります。

ご契約中のプランが上記条件に該当していることを、ご確認ください。

【Microsoft社 Webサイト】

< <https://learn.microsoft.com/ja-jp/office365/servicedescriptions/office-365-platform-service-description/office-365-plan-options> >

※ 「Microsoft 365 および Microsoft 365の各プランのサービスの可用性」の項で、Microsoft 365プラットフォームとExchange Online が利用可能なプランであることが、利用可能な条件となります。

- パッケージ版をご利用の場合、desknet's NEOのバージョンが「V7.0 R2.0」以上であること。
- パッケージ版をご利用の場合、desknet's NEOのサーバーがSSL（https://〜 で始まるURL）に対応していること。
- パッケージ版をご利用の場合、desknet's NEOのサーバーから以下のURLに対しアクセスが可能であること。
https://graph.microsoft.com/〜
https://login.microsoftonline.com/〜
- Microsoft 365ならびAzureについて理解していること。

3. 本書の対象者

以下の利用者を対象としています。

- desknet's NEOシステム管理者アカウント
- Microsoft 365グローバル管理者アカウント

4. 注意事項

必ず下記注意事項を確認し、ご了承頂いた上でご利用頂きます様、お願い申し上げます。

【本書の記載に関する注意事項】

- 本書内で記載されている外部URLは、**2025年1月1日 現在のものです**。また、本書内のMicrosoft 365、Azure に関する画面および説明は**2025年1月1日現在のものです**。
- Azureの画面構成や前提条件のプランに関する内容は、お客様のご利用状況やMicrosoft 社の仕様変更等により実際の画面やサービスと同一でない場合がございます。
- Azure設定に関して、**本連携機能に関する部分以外（本書掲載内容の範囲外）のお問い合わせは、お答えできない場合がございます**。

【ディスク容量に関する注意事項】

- スケジュールに添付されたファイルの同期をする設定にした場合、それらのファイルもdesknet's NEOのサーバー内に保存（同期）されます。
その為、**クラウド版desknet's NEOをご利用の場合は、ディスク使用容量を消費するため、契約容量超過にご注意ください**。

【機能に関する注意事項】

- 本書のスケジュール同期は Web版 Outlook の使用を前提としております。
そのため、同期したスケジュールは Outlookクライアントアプリ では「予定」ではなく「会議」として登録されますが、こちらは仕様となります。
- desknet's NEOと連携している Microsoft 365のアカウントがロックされた場合、そのアカウントを使用してのシングルサインオンは出来なくなります。その際でも、desknet's NEOのアカウントを使用して、desknet's NEOへのログインは可能です。
- その他、下記「**制限事項（Microsoft 365連携）**」をご一読ください。
< https://www.desknets.com/neo/requirement/limit_o365sync.html >

5. 登録商標

本書に掲載されている商品またはサービスなどの名称は、各社の商標または登録商標です。

- Microsoft AzureおよびMicrosoft Entra IDは、米国Microsoft Corporationの米国および、その他の国における登録商標または商標です。
- Windows、Microsoft、Outlook、Word、Excel、PowerPoint、Office 365、Edge、および各製品のロゴは、Microsoft Corporationの米国及びその他の国における商標または登録商標です。
- その他会社名、各製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。



02

管理者による事前準備

- 本項の操作は、desknet's NEOシステム管理者および、Microsoft 365グローバル管理者アカウントの権限が必要です。
- ✓ 既にMicrosoft 365を利用開始している状態を想定しています。
Microsoft 365の利用開始方法、設定につきましては、Microsoft社のドキュメントをご確認ください。

1. Microsoft 365連携 設定前の確認事項

Microsoft 365連携の設定を行う前に、desknet's NEOシステム管理者の下記操作画面が設定されているか**確認**してください。

A) 【パッケージ版/クラウド版をご利用の場合】

「管理者設定 > システム管理 > URLと基本認証の設定」の項目「アクセスURL(内部)」、「本体」が入力されているか。

オンラインヘルプ掲載箇所 (URLと基本認証を設定する)

- https://www.desknets.com/neo/help/ja_JP/admin/set/004.html#set75

B) 【パッケージ版をご利用の場合】

プロキシサーバーを利用されている場合、「管理者設定 > システム管理 > プロキシサーバー設定」の設定を行ってください。

オンラインヘルプ掲載箇所 (プロキシサーバーの設定を行う)

- https://www.desknets.com/neo/help/ja_JP/admin/set/004.html#set49

注意事項

• **クラウド版をご利用の場合**

クラウドでは、desknet's NEOのプロキシサーバー設定を利用できません。

何らかの設定を入力されている場合は、Outlook「予定表」との同期が正常に行えません。

2. 設定用のオプションメニューの作成

管理者向けの「Microsoft 365」の設定を行う画面を表示するための、オプションメニューを作成します。

- ① ご利用中のdesknet's NEOにシステム管理者ユーザーでログインしてください。
- ② 管理者設定 > メニュー設定 > オプションメニュー設定へ移動し、**【オプションメニューの追加】ボタン**を押してください。



- ③ 下記の必要事項を入力し **【追加】ボタン**をクリックしてください。



項目	入力値
①メニュー名	任意のメニュー名を入力します。 "【管】Microsoft 365連携設定" 等、判別しやすい名称を推奨。
②URL	お使いのサーバーがLinuxの場合 zo365set.cgi お使いのサーバーがWindowsの場合 zo365set.exe のみ入力してください。 ⚠️ クラウド版の場合は、Linux (zo365set.cgi) となります。
③アクセス権設定	「Administrators」ロールを設定します。

- ④ 「オプションメニュー設定」で作成したオプションメニューをポータル画面のメニューや、画面左端のパレットメニュー上に配置してください。

関連FAQ

- [作成したオプションメニューを表示させる方法](#)

3. 初期設定を行う

Microsoft Azureへの設定追加や、Microsoft 365との連携のための設定値を保存します。

- ① 「2.設定用のオプションメニューの作成」で作成したオプションメニューをクリックすると、Microsoft 365連携の「初期設定」画面が表示されます。
 先ず初めに、下記のラジオボタン部分を「使用しない」から「使用する」に変更してください。

メニュー

【管】 Microsoft 365連携 | スケジュール | ToDo | ウェブメール

初期設定 | 共通設定 | ユーザー情報連携設定 | 連携情報連携設定

変更

初期設定

ここでは、desknet's NEOとMicrosoft 365を連携するための設定を行います。
 Microsoft 365との連携を設定すると、以下のようなことができます。

スケジュールデータをMicrosoft 365の「予定表」と同期することができます。
 Microsoft 365にログインした状態で、Microsoft 365アプリケーションを起動することができます。

desknet's NEO & Microsoft 365連携を使用しますか？
 使用する 使用しない

desknet's NEOとMicrosoft 365を連携するためには、まず「Microsoft Azure」に「アプリの登録」を行っていただく必要があります。

- ② 次にWindows Azureロゴの右横にあるリンク「Azureにログインしてアプリを登録する」をクリックしてください。

desknet's NEO & Microsoft 365連携を使用しますか？
 使用する 使用しない

desknet's NEOとMicrosoft 365を連携するためには、まず「Microsoft Azure」に「アプリの登録」を行っていただく必要があります。

Windows Azure

[Azureにログインしてアプリを登録する。](#)

1. お持ちのMicrosoft 365グローバル管理者アカウントで、Azureにサインインします。

- 以下、ブラウザの別タブで開いたAzure側の画面説明となります。
(①、②のdesknet's NEO側「初期設定」画面は閉じないでください。)

- 既にMicrosoft 365を利用開始している状態を想定しています。
Microsoft 365の利用開始方法、設定につきましては、Microsoft社のドキュメントをご確認ください。

- ③ リンク「Azureにログインしてアプリを登録する」をクリックすると別タブで下記画面が表示されます。**Microsoft 365グローバル管理者アカウント**にて、Azureにサインインしてください。

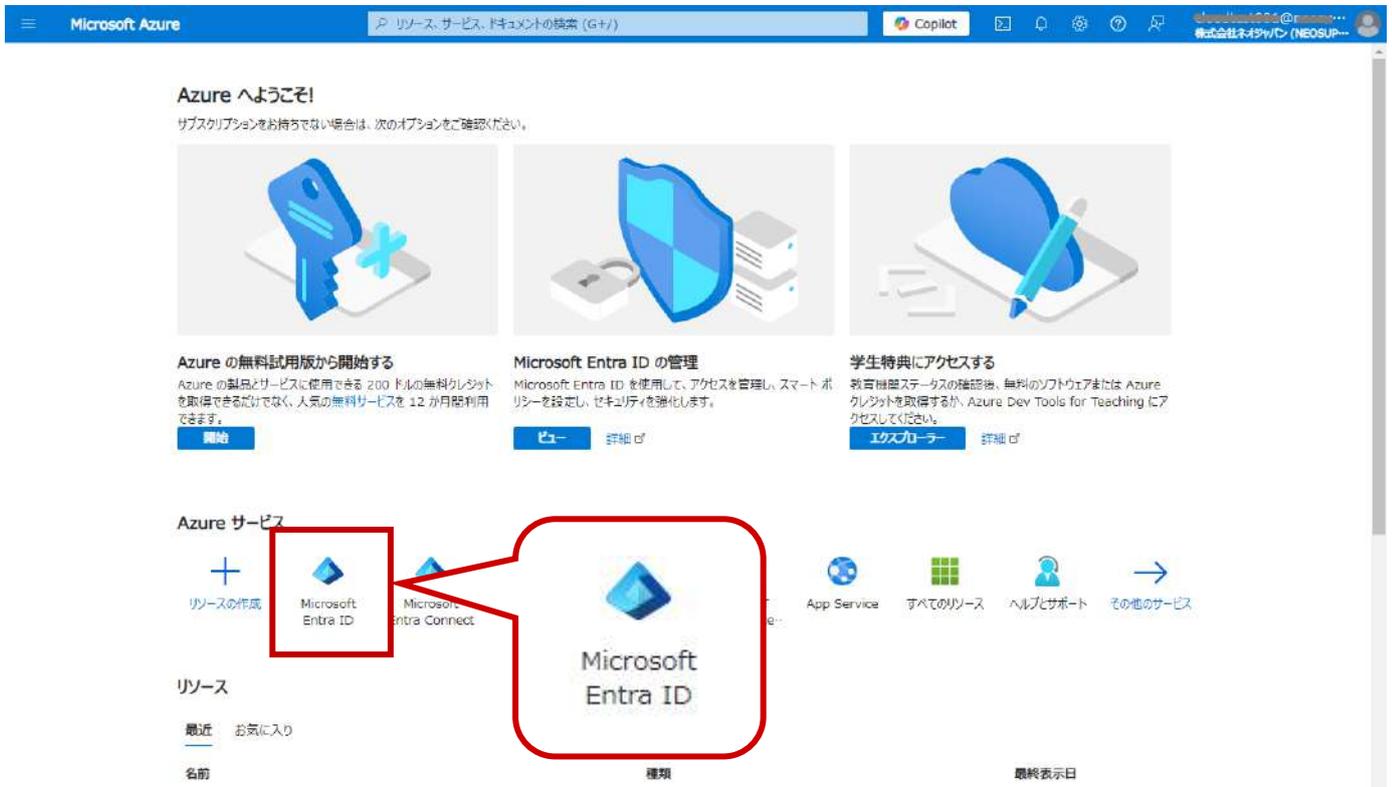
ポイント

多くの場合、Microsoft 365を開始する際に取得した下記のようなアカウントが、Microsoft 365グローバル管理者となります。

<ユーザID>@<Microsoft 365のテナントID>.onmicrosoft.com



- ④ サインインすると下記画面が表示されますので、「Microsoft Entra ID」をクリックしてください。



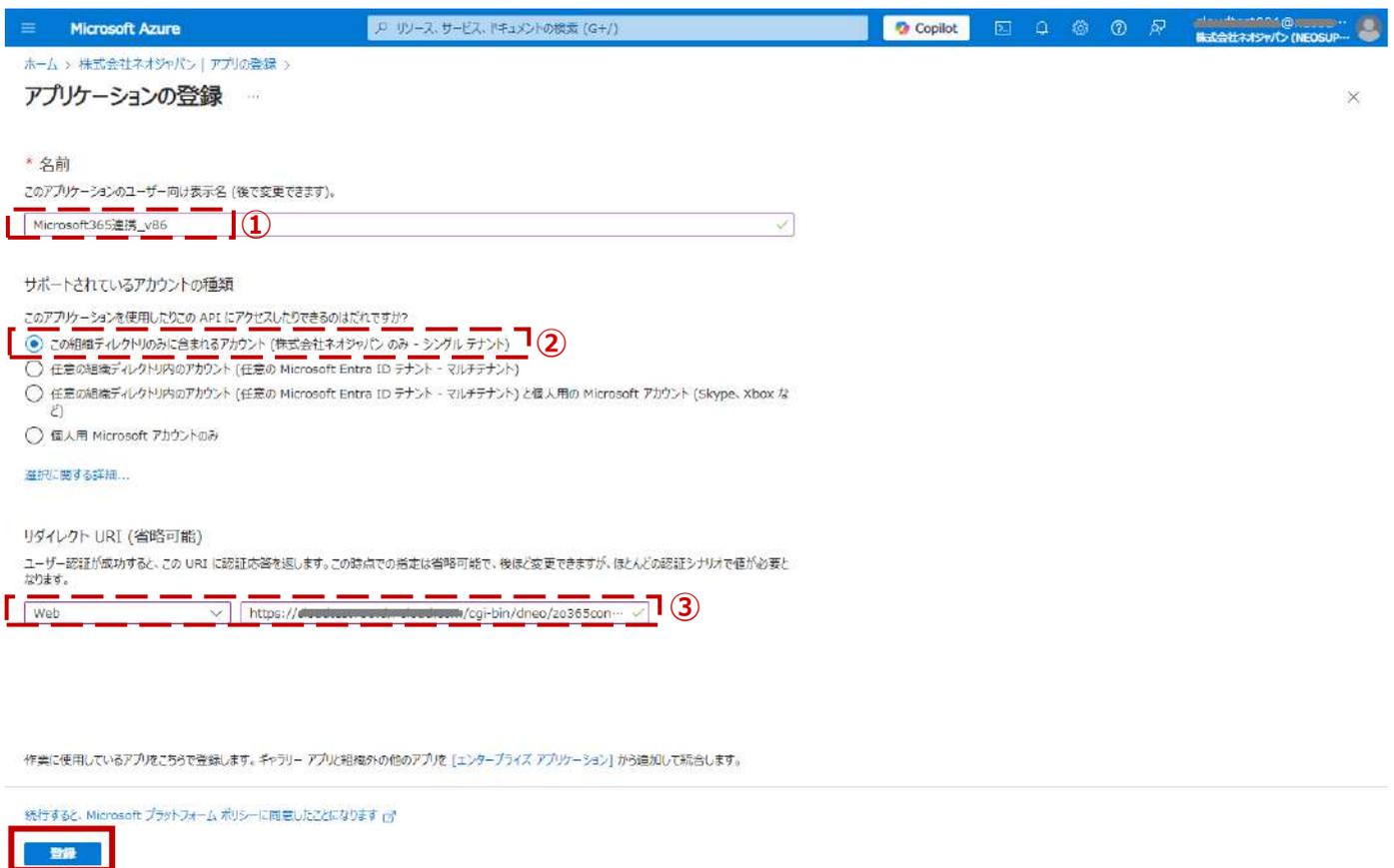
- ⑤ 画面左側サブメニューにある「アプリの登録」をクリックします。



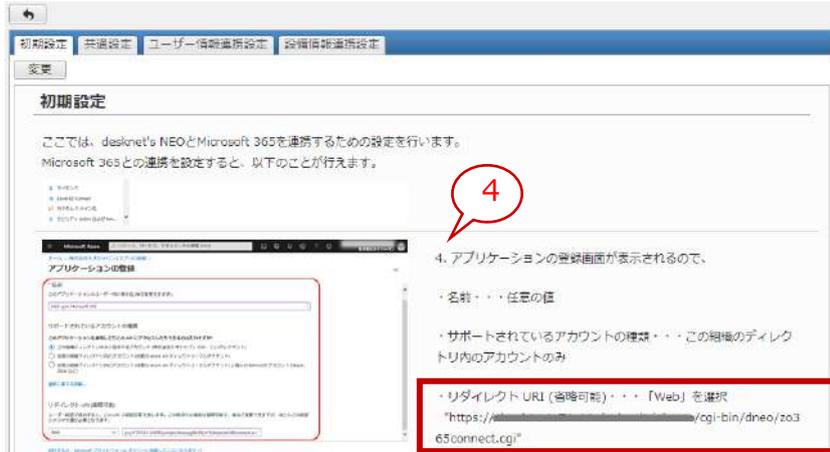
⑥ 画面上部の「+ 新規登録」をクリックします。



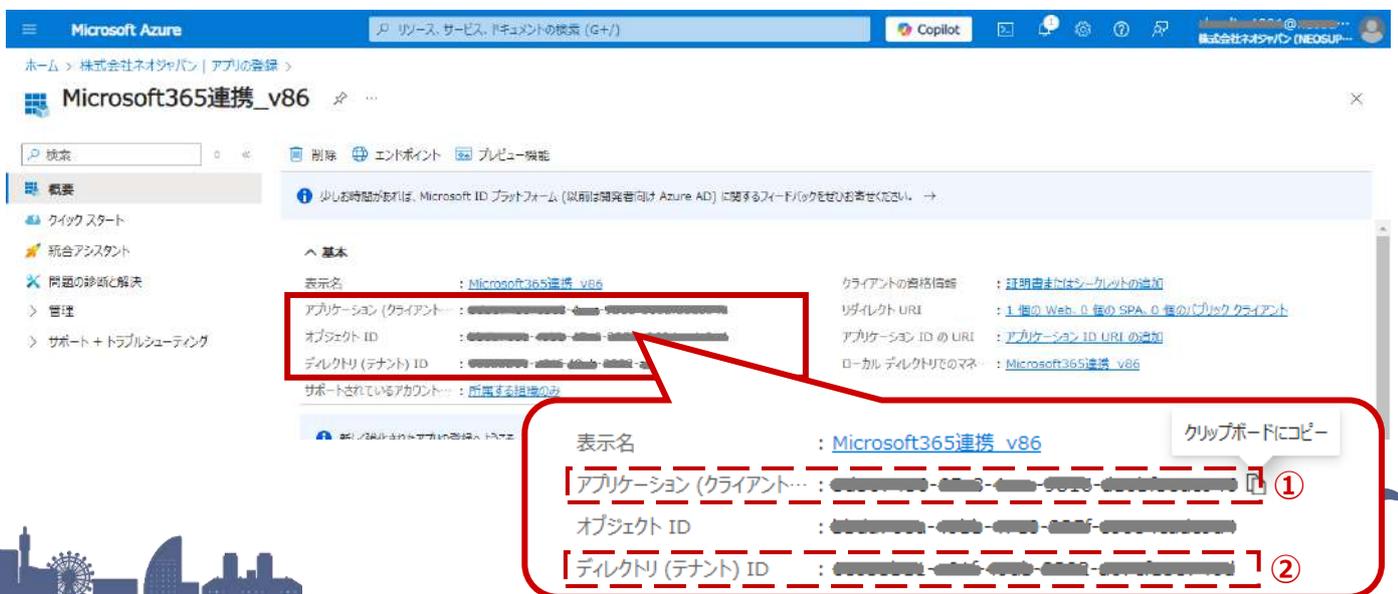
⑦ 必要事項を入力し、【登録】ボタンをクリックします。



※ 入力値の解説は次ページ

項目	入力値
①名前	任意の名前を入力します。 ※“Microsoft365 連携” 等、分かりやすい名称を推奨します。
②サポートされているアカウントの種類	「この組織ディレクトリのみに含まれるアカウント (●●のみ - シングル テナント)」を選択します。 ※デフォルト設定
③リダイレクトURI (省略可能)	<ul style="list-style-type: none"> プルダウンメニュー (プラットフォームの選択) を「Web」 リダイレクトURI <p>＜お使いのサーバーがLinuxの場合＞ https:// (ご利用desknet's NEOドメイン) /cgi-bin/dneo/zo365connect.cgi</p> <p>＜お使いのサーバーがWindowsの場合＞ https:// (ご利用desknet's NEOドメイン) /scripts/dneo/zo365connect.exe</p> <p>※ リダイレクトURIは"HTTPS"で始める必要があります。 ※ ご利用のdesknet's NEO側 Microsoft 365連携「初期設定」画面の4番目にも設定値が表示されますので、コピーしAzure側にペーストするか、上記を手入力ください。</p> 

⑧ アプリの作成が正常に完了すると、作成したアプリの情報画面が表示されます。「アプリケーションID (クライアントID)」、「ディレクトリID (テナントID)」の値をコピーしてください。



表示名 : Microsoft365連携_v86

アプリケーション (クライアントID) : [Redacted]

オブジェクト ID : [Redacted]

ディレクトリ (テナント) ID : [Redacted]

クライアントの資格情報 : 証明書またはシークレットの追加

リダイレクト URI : 1 個の Web (1 種の SPA, 0 種のパブリッククライアント)

アプリケーション ID の URI : アプリケーション ID URI の追加

ローカル ディレクトリでのマネージメント : Microsoft365連携_v86

表示名 : Microsoft365連携_v86 クリップボードにコピー

アプリケーション (クライアントID) : [Redacted] ①

オブジェクト ID : [Redacted]

ディレクトリ (テナント) ID : [Redacted] ②

- ⑨ desknet's NEO側 Microsoft 365連携「初期設定」画面の5番目に移動し、⑧でコピーした「アプリケーションID (クライアントID)」、「ディレクトリID (テナントID)」の値をペーストしてください。



5. 登録が終了すると、アプリ情報画面が表示されるので、「アプリケーション (クライアント) ID」、「ディレクトリ (テナント) ID」を保存します。

→この値が「アプリケーションID (クライアントID)」、「ディレクトリID (テナントID)」に設定する値となります。

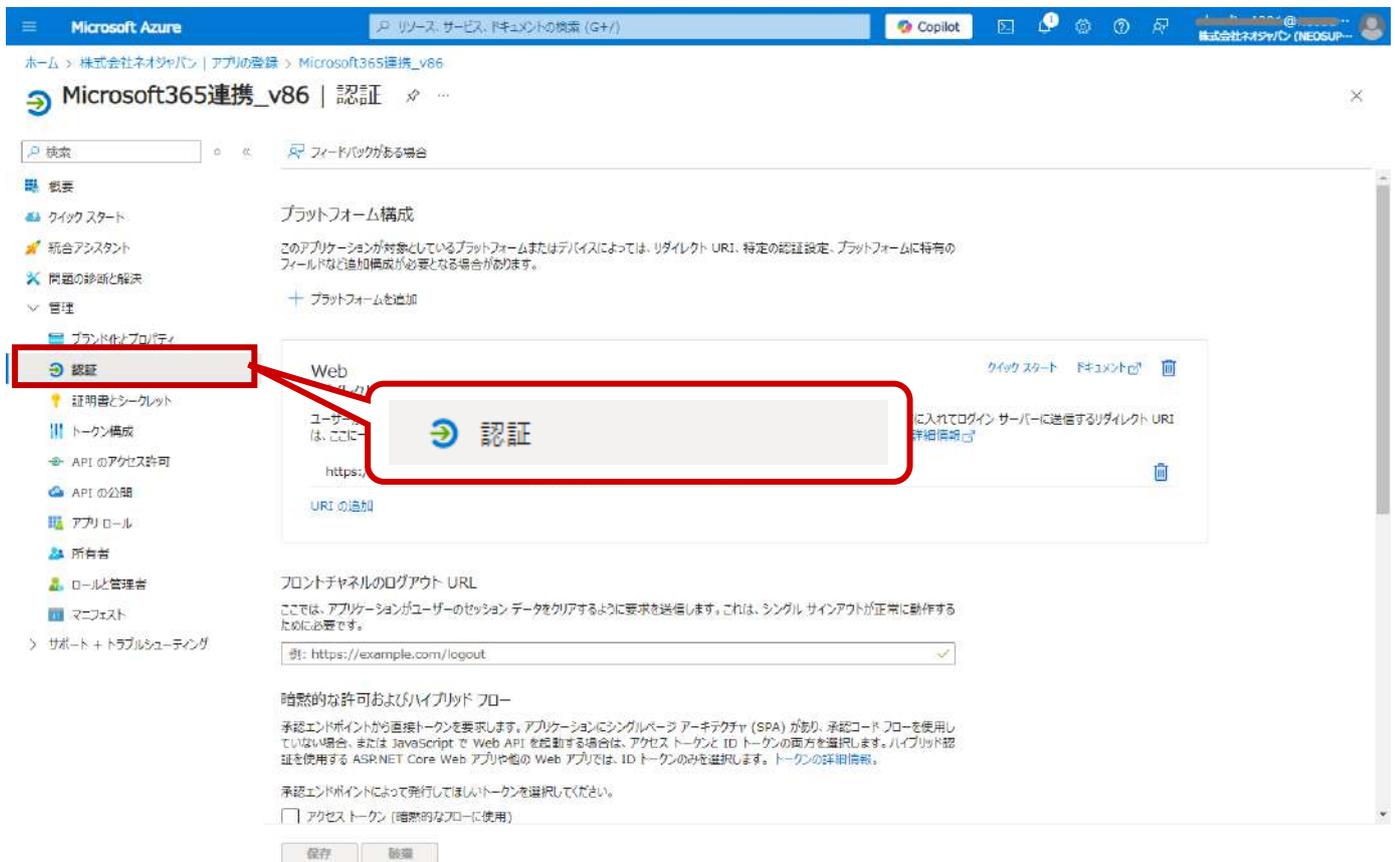
⑧の①からペースト

アプリケーションID (クライアントID) (*)

ディレクトリID (テナントID) (*)

⑧の②からペースト

- ⑩ Azureの画面に戻り、画面左部のメニューから「管理」の下にある「認証」をクリックします。



- ⑪ 表示された画面の「リダイレクトURI」の値をコピーします。

Web
リダイレクト URI

ユーザーが正常に認証またはサインアウトされた後に認証応答 (トークン) を返すときに宛先として実行される URL。要求に入れてログインサーバーに送信するリダイレクト URI は、ここに一覧表示されているものと一致する必要があります。これは応答 URL とも呼ばれます。リダイレクト URI と詳細情報

https://cloud-test-71a11-dk-cloudtrial.com/cgi-bin/dneo/zo365connect.cgi

URI の追加

リダイレクト URI

ユーザーが正常に認証またはサインアウトされた後に認証応答 (トークン) を返すときに宛先として表示されているものと一致する必要があります。これは応答 URL とも呼ばれます。リダイレクト

https://cloud-test-71a11-dk-cloudtrial.com/cgi-bin/dneo/zo365connect.cgi

- ⑫ desknet's NEO側 Microsoft 365連携「初期設定」画面の6番目に移動し、⑪でコピーした「リダイレクトURI」の値をペーストしてください。

6

6. 次に、「認証」リンクをクリックし、登録したURLを確認します。

→このURLが、「リダイレクトURI (応答URL)」に設定する値となります。

※ 初回登録時は、アプリ登録時に入力した「リダイレクトURI (省略可能)」が表示されています。

⑪からペースト

リダイレクトURI (応答URL) (*)

リダイレクトURI (応答URL) は"HTTPS"で始める必要があります。

- ⑬ Azureの画面に戻り、画面左部のメニューから「管理」の下にある「証明書とシークレット」をクリックします。

The screenshot shows the Microsoft Azure portal interface. On the left-hand side, there is a navigation menu. Under the '管理' (Management) section, the '証明書とシークレット' (Certificates and Secrets) option is highlighted with a red box. A red callout box points to this menu item, containing the text '証明書とシークレット'.

- ⑭ 「+新しいクライアント シークレット」をクリックします。

The screenshot shows the Microsoft Azure portal interface, specifically the 'Certificates and Secrets' page. A red callout box points to a button labeled '+ 新しいクライアント シークレット' (Add New Client Secret). Below this, there is a table with columns for '説明' (Description), '有効期限' (Expiration), '値' (Value), and 'シークレット ID' (Secret ID). The table is currently empty, and a message below it states: 'このアプリケーションのクライアント シークレットは作成されていません。' (No client secrets have been created for this application.)

⑮ 必要事項を入力し **【追加】 ボタン**をクリックします。



項目	入力値
①説明	任意のメニュー名を入力します。 "Microsoft 365連携" 等、判別しやすい名称を推奨。
②有効期限	発行するクライアントシークレットの有効期限を指定します。  Microsoft 365利用有無に関わらず、期限が過ぎると有効期限切れとなり、クライアントシークレットの再発行が必要となります。 2023年時点のAzureの本設定では「有効期限なし」は設定できません。 設定後の期限をdesknet's NEOスケジュール等に記載し管理ください。

⑯ 作成したクライアント シークレットの「値」をコピーします。

⚠️ 注意事項

- ※ 他の画面に遷移すると、クライアントシークレットの一部がマスク表示となります。また、「値」ではなく「シークレットID」をコピー設定するケースが多く見られます。**必ずこちらの画面で「値」のコピーを行ってください。**
- ※ コピーのし忘れや誤って他画面へ遷移した場合は、該当のクライアントシークレットを削除し、再度⑭の手順から実行してください。



必ず「値」をコピー

値 (Value) シークレット ID (Secret ID)

(The image shows a red dashed box around the 'Value' column and a red arrow pointing to the callout text above.)

- ⑰ desknet's NEO側 Microsoft 365連携「初期設定」画面の**8番目**に移動し、⑯でコピーした「クライアントシークレット」の値をペーストしてください。その後、画面下にある【変更】ボタンを押して設定を保存してください。

8. パスワードが発行されていますので、表示された文字列を保存しておいてください。(下部拡大画面をご参照ください。)

※ ここで保存しないと、後で参照することはできません。

→この値は、「クライアントシークレット (パスワード)」に設定する値となります。

⑯からペースト

クライアントシークレット (パスワード) (*)

- ⑱ 「初期設定」画面の上下にある【変更】ボタンをクリックし設定値を確定させてください。

- ⑲ Azureの画面に戻り、画面左部のメニューから「管理」の下にある「API のアクセス許可」をクリックします。

Microsoft Azure | リソース、サービス、ドキュメントの検索 (G+)

Microsoft365連携_v86 | 証明書とシークレット

API のアクセス許可

説明	有効期限	値	シークレット ID
Microsoft 365連携_v86	2027/1/29

⑳ 「+ アクセス許可の追加」 をクリックします。

Microsoft Azure | リソース、サービス、ドキュメントの検索 (G+)

Microsoft365連携_v86 | API のアクセス許可

構成されたアクセス許可

アプリケーションは、同意のプロセスの一環としてユーザーから許可を求め、API を呼び出すことが承認されます。構成されたアクセス許可の一覧には、アプリケーションに必要なすべてのアクセス許可を含める必要があります。API アクセス許可と同意に関する詳細情報

+ アクセス許可の追加 ✓ 株式会社ネオジャパンに管理者の同意を与えます

API / アクセス許可の名前	種類	説明	管理者の同意が必要	状態
▼ Microsoft Graph (1)				
User.Read	委任済み	Sign in and read user profile	いいえ	...

㉑ 「所属する組織で使用している API」 タブをクリックします。

Microsoft Azure | リソース、サービス、ドキュメントの検索 (G+)

Microsoft365連携_v86 | API のアクセス許可

API アクセス許可の要求

API を選択します

Microsoft API **所属する組織で使用している API** 自分の API

よく使用される Microsoft API

- Microsoft Graph: Office 365, Enterprise Mobility + Security, Windows 10 の大量のデータ活用し、Microsoft Entra ID, Excel, Intune, Outlook/Exchange, OneDrive, OneNote, SharePoint, Planner など単一エンドポイント経由でアクセスできます。
- Azure Communication Services: Microsoft Teams で使用される同じセキュリティで保護された CPaaS プラットフォームを使用した豊富なコミュニケーション エクスperiences
- Azure Rights Management Services: 検証済みのユーザーに、保護されたコンテンツの読み取りと書き込みを許可します
- Azure Service Management: Azure portal で利用できる機能の大部分へのプログラムによるアクセス
- Data Export Service for Microsoft Dynamics 365: Microsoft Dynamics CRM 組織から外部宛先にデータをエクスポートします
- Dynamics 365 Business Central: Dynamics 365 Business Central のデータと機能へのプログラムによるアクセス
- Dynamics CRM: CRM ビジネス ソフトウェアと ERP システムの機能にアクセスします
- Intune: Intune データへのプログラムによるアクセス
- Office 365 Management APIs: Office 365 と Microsoft Entra ID のアクティビティ ログからユーザー、管理者、システム、ボタンのアクションとイベントに関する情報を取得します
- OneNote: OneNote ノートブックでノート、リスト、国、ファイルなどを作成して管理します
- Power Automate: フロー テンプレートの組み込みとフローの管理
- Power BI Service: Power BI のデータセット、テーブル、行などのマルチモード リソースへのプログラムによる
- SharePoint: SharePoint データリソースで対話します

- ② テキストボックスに「Microsoft Graph」と入力し、表示された“Microsoft Graph”を選択してください。

The screenshot shows the 'API Access Requirements' page in the Microsoft Azure portal. The search bar at the top contains the text 'Microsoft Graph'. Below the search bar, a table lists the search results. The first result, 'Microsoft Graph', is highlighted with a red box and a red arrow pointing to it, labeled with a circled '2' and the text '選択' (Select). Above this, the search input is highlighted with a red dashed box and a red arrow, labeled with a circled '1' and the text 'Microsoft Graph と入力' (Enter Microsoft Graph).

名前	アプリケーション (クライアント) ID
Microsoft Graph	00000003-0000-0000-c000-000000000000
Microsoft Graph Connectors Core	f8f7e2bb-e116-4ba6-8bee-ca162cfa310d

- ③ 「アプリケーションの許可」を選択後、表示されたテキストボックスに「Calendars.ReadWrite」と入力してください。

The screenshot shows the 'API Access Requirements' page in the Microsoft Azure portal. The search bar at the top contains the text 'Calendars.ReadWrite'. Below the search bar, a table lists the search results. The first result, 'Calendars.ReadWrite', is highlighted with a red box and a red arrow pointing to it, labeled with a circled '2' and the text 'Calendars.ReadWrite と入力' (Enter Calendars.ReadWrite). Above this, the search input is highlighted with a red dashed box and a red arrow, labeled with a circled '1' and the text '選択' (Select).

名前	種類
Microsoft Graph (1)	
User.Read	委任済み

- ②④ 表示された「Calendars」を選択・展開し、「Calendars.ReadWrite」にチェックを入れ、[アクセス許可の追加]ボタンを選択してください。

API アクセス許可の要求

Microsoft Graph
https://graph.microsoft.com/

アプリケーションに必要なアクセス許可の種類

委任されたアクセス許可
アプリケーションは、サインインしたユーザーとして API にアクセスする必要があります。

アプリケーションの許可
アプリケーションは、サインインしたユーザーを使用して、バックグラウンドサービスまたはデーモンとして実行されます。

アクセス許可を選択する

Calendars.ReadWrite

アクセス許可

管理者の同意が必要

Calendars (1)

Calendars.ReadWrite
Read and write calendars in all mailboxes

はい

表示が Calendars.ReadWrite Read and write calendars in all mailboxesであることを確認してください。

アクセス許可の追加

- ②⑤ 「xxxxxに管理者の同意を与えます」を選択します。

API アクセス許可の要求

アプリケーションに対するアクセス許可を編集しています。ユーザーは、既に同意したことがある場合でも同意が必要になります。

テナント全体の同意を付与すると、そのアプリケーションに対してテナント全体に異に付与されているアクセス許可が取り消される場合があります。ユーザーが自分の代わりに付与済みのアクセス許可に影響を受けません。

「管理者の同意が必要」列には、組織の既定値が表示されます。ただし、ユーザーの同意は、アクセス許可、ユーザー、アプリにカスタマイズできます。この列には、ご自身の組織や、このアプリが使用される組織の値が反映されていない場合があります。

構成されたアクセス許可

アプリケーションは、同意のプロセスの一環としてユーザーが管理者からアクセス許可が付与されている場合、API を呼び出すことが承認されます。構成されたアクセス許可の一覧には、アプリケーションに必要なすべてのアクセス許可を含める必要があります。アクセス許可の同意に関する詳細情報

アクセス許可の追加

株式会社ネオジャパンに管理者の同意を与えます

API / アクセス許可の名前	種類	説明	管理者の同意が必要	状態
Calendars.ReadWrite	アプリ...	Read and write calendars in all mailboxes	はい	⚠️ 株式会社ネオジャパンに...
User.Read	委任済み	Sign in and read user profile	いいえ	...

個々のアプリに関する同意済みのアクセス許可とテナントの同意設定を表示および管理するには、エンタープライズ アプリケーションお試してください。

【付与前の状態】：「XXXXに付与されていません」

②⑥ 確認メッセージが表示されるので **[はい]** ボタンを選択してください。

Microsoft Azure | リソース、サービス、ドキュメントの検索 (G+/)

ホーム > 株式会社ネオジャパン | アプリの登録 > Microsoft365連携_v86

Microsoft365連携_v86 | API のアクセス許可

管理者の同意の確認を与えます。

株式会社ネオジャパンのすべてのアカウントについて、要求されたアクセス許可に対する同意を付与しますか？ この操作により、このアプリケーションが既に持っている既存の管理者の同意レコードが、以下の一覧の内容に一致するよう更新されます。

はい いいえ

「管理者の同意が必要」列には、組織の既定値が表示されます。ただし、ユーザーの同意は、アクセス許可、ユーザー、アプリごとにカスタマイズできます。この列には、ご自分の組織や、このアプリが使用される組織の値が反映されていない場合があります。 [詳細情報](#)

構成されたアクセス許可

アプリケーションは、同意のプロセスの一環としてユーザーが管理者からアクセス許可が付与されている場合、API を呼び出すことが承認されます。構成されたアクセス許可の一覧には、アプリケーションに必要なすべてのアクセス許可を含める必要があります。 [アクセス許可と同意に関する詳細情報](#)

+ アクセス許可の追加 ✓ 株式会社ネオジャパンに管理者の同意を与えます

API / アクセス許可の名前	種類	説明	管理者の同意が必要	状態
Microsoft Graph (2)				

②⑦ 状態が緑色アイコン「xxxxに付与されました」になったことを確認ください。

Microsoft Azure | リソース、サービス、ドキュメントの検索 (G+/)

ホーム > 株式会社ネオジャパン | アプリの登録 > Microsoft365連携_v86

Microsoft365連携_v86 | API のアクセス許可

要求されたアクセス許可の管理者の同意が正常に付与されました。

テナント全体の同意を付与すると、そのアプリケーションに対してテナント全体に既に付与されているアクセス許可が取り消される場合があります。ユーザーが自分の代わりに付与済みのアクセス許可は影響を受けません。 [詳細情報](#)

「管理者の同意が必要」列には、組織の既定値が表示されます。ただし、ユーザーの同意は、アクセス許可、ユーザー、アプリごとにカスタマイズできます。この列には、ご自分の組織や、このアプリが使用される組織の値が反映されていない場合があります。 [詳細情報](#)

構成されたアクセス許可

アプリケーションは、同意のプロセスの一環としてユーザーが管理者からアクセス許可が付与されている場合、API を呼び出すことが承認されます。構成されたアクセス許可の一覧には、アプリケーションに必要なすべてのアクセス許可を含める必要があります。 [アクセス許可と同意に関する詳細情報](#)

+ アクセス許可の追加 ✓ 株式会社ネオジャパンに管理者の同意を与えます

API / アクセス許可の名前	種類	説明	管理者の同意が必要	状態
Microsoft Graph (2)				
Calendars.ReadWrite	アプリケー...	Read and write calendars in all mailboxes	はい	● 株式会社ネオジャパンに...
User.Read	責任済み	Sign in and read user profile	いいえ	● 株式会社ネオジャパンに...

個々のアプリに関する同意済みのアクセス許可とテナントの同意設定を表示および管理するには、エンタープライズ アプリケーションをお試しください。

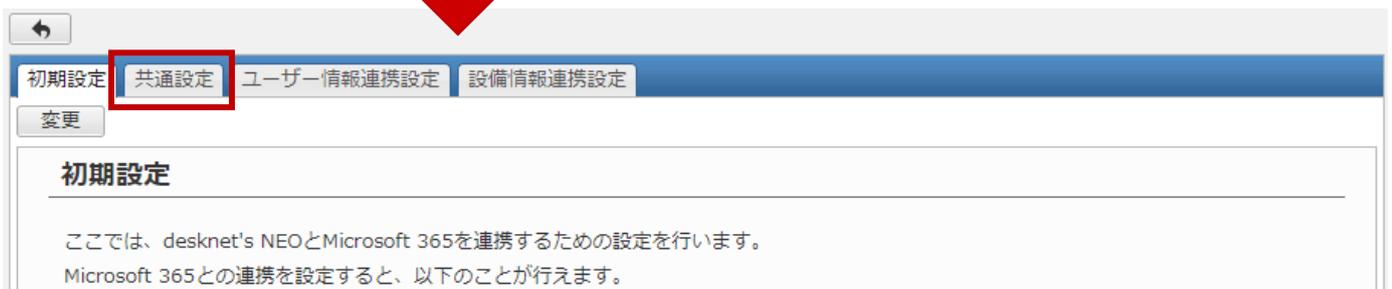
【付与後の状態】：「XXXXに付与されました」

②⑧ 以上で初期設定は完了です。
誤操作防止のため、Azureを開いているタブを閉じることを推奨します。

4. スケジュールの同期設定を行う

Microsoft 365連携のスケジュール同期に関する設定を行います。

- ① Microsoft 365連携 設定画面の「**共通設定**」タブを選択してください。
画面を閉じてしまった場合は、再度「[2.設定用のオプションメニューの作成](#)」で作成したオプションメニューからアクセスください。



② 下記の必要事項を入力し、**【変更】ボタン**をクリックしてください。

項目	入力値
①同期	desknet's NEOのスケジュール（予定）と、Outlookの「予定表」を同期するかどうかの設定です。
①-1 個人毎の設定変更	ユーザー毎に変更可能とするかどうかを設定します。
②同機種別	サービス間の同期の方向を双方向か片方向を設定できます。
③同期対象外の予定種別	同期を行わない予定を選択します。
④過去の予定	過去の予定を同期するかを選択します。
⑤「添付ファイル」データ	スケジュールに添付されたファイルも同期するかどうかの設定です。  “同期する”にした場合、データがdesknet's NEOのサーバー内に保存（同期）されます。その為、クラウド版desknet's NEOをご利用の場合は、ディスク使用容量を消費します。契約容量超過にご注意ください。
⑤-1 個人毎の設定変更	ユーザー毎に変更可能とするかどうかを設定します。
⑥自動同期	スケジュールデータを自動的に同期するかどうか、また自動的に同期する場合の間隔を選択します。“10分間隔”、“15分間隔”、“30分間隔”、“60分間隔”から選択します。  クラウド版をご利用の場合 同期処理の集中によるサーバー高負荷の発生抑止のため、下記設定値で固定とさせて頂いております。 自動同期間隔：60分 (変更につきましては、お問合せフォームよりご相談ください)
⑥-1 個人毎の設定変更	ユーザー毎に変更可能とするかどうかを設定します。
⑦自動同期の範囲	スケジュールデータを自動的に同期する範囲を設定します。
⑧自動同期の日数	自動同期の基準範囲（⑦）に対して、設定した日数分同期範囲を広げる設定です。  クラウド版をご利用の場合 同期処理の集中によるサーバー高負荷の発生抑止のため、下記設定値で固定とさせて頂いております。 同期する過去の日数：7日 同期する未来の日数：7日 (変更につきましては、お問合せフォームよりご相談ください)
⑨手動同期	手動同期を許可するかどうかを設定します。 ※ "許可しない"とした場合、スケジュール画面の[Outlook「予定表」と同期]ボタンが非表示になります。
⑩手動同期の日数	手動同期の基準範囲（⑨）に対して、設定した日数分同期範囲を広げる設定です。  クラウド版をご利用の場合 同期処理の集中によるサーバー高負荷の発生抑止のため、下記設定値で固定とさせて頂いております。 同期する過去の日数：7日 同期する未来の日数：7日 (変更につきましては、お問合せフォームよりご相談ください)
⑪Teams 連携	予定を追加する際、Teams会議を使用できるようにするかどうかを設定します。
⑫社外参加者の追加	Teams会議の追加をする際、社外参加者追加を許可するかどうかを設定します。

5. ユーザー毎のスケジュールの同期設定を行う

ユーザー毎のMicrosoft 365連携設定を**管理者が実施**する場合の操作です。

※本画面の設定を各ユーザーに実施させる場合には、「[6.ユーザー向け設定用のオプションメニューの作成](#)」の手順に従いオプションメニューを作成・配置してください。

- ① Microsoft 365連携 設定画面の「**ユーザー情報連携設定**」タブを選択してください。画面を閉じてしまった場合は、再度「[2.設定用のオプションメニューの作成](#)」で作成したオプションメニューからアクセスください。

メニュー

【管】 Microsoft 365... スケジュール ToDo ウェブメール

初期設定 共通設定 **ユーザー情報連携設定** 設備情報連携設定

変更

初期設定

ここでは、desknet's NEOとMicrosoft 365を連携するための設定を行います。
Microsoft 365との連携を設定すると、以下のことが行えます。

全41件

初期設定 共通設定 **ユーザー情報連携設定** 設備情報連携設定

組織 所属ユーザー数：41人

同期	氏名	UPN	メールアドレス	状態
	伊藤守			
	加藤桃子			
	清水伊織			
	John Smith			
	森優			
	石橋紗枝			

② 連携を設定する**ユーザー名**をクリックします。

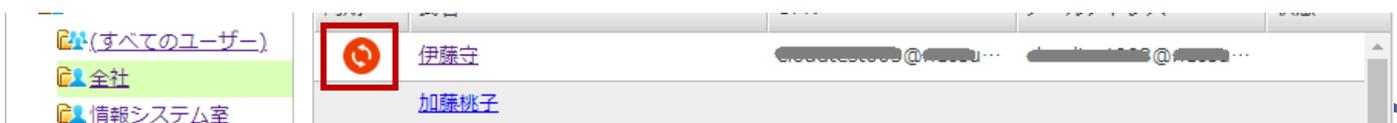


③ 設定内容を入力し、**[変更]** ボタンをクリックします。



項目	入力値
①スケジュールの同期設定	「4.スケジュールの同期設定を行う」の②と同様の設定です。同期の有無等を、ユーザー毎に異なる設定とすることが可能です。
①-1 既定のリマインダー	Outlook「予定表」のリマインダーを設定するかどうか、また設定する場合のリマインダーの値を選択します。
②UPN	Microsoft 365でユーザーを識別するために使用する識別子です。 (通常はMicrosoft365のメールアドレスと同じ、 <ユーザーID>@<Microsoft 365のテナントID>.onmicrosoft.com) Microsoft 365アカウントの詳細情報をご確認ください。
③メールアドレス	Microsoft 365アカウントの持つメールアドレスを設定してください。

④ 設定が完了すると、ユーザー一覧の「同期」欄に下記アイコンが表示されます。



6. ユーザー向け設定用のオプションメニューの作成

「[5.ユーザー毎のスケジュールの同期設定を行う](#)」の設定を各ユーザーに実施させる、また設定内容を各ユーザーに変更を許す場合、下記手順でユーザーが情報連携設定を行うオプションメニューを作成する必要があります。

- ① ご利用中のdesknet's NEOにシステム管理者ユーザーでログインしてください。
- ② 管理者設定 > メニュー設定 > オプションメニュー設定へ移動し、**【オプションメニューの追加】ボタン**を押してください。



- ③ 下記の必要事項を入力し **【追加】ボタン**をクリックしてください。

項目	入力値
①メニュー名	任意のメニュー名を入力します。 "【個】 Microsoft 365連携設定" 等、判別しやすい名称を推奨。
②URL	お使いのサーバーがLinuxの場合 zo365set.cgi?cmd=o365psetuserentry お使いのサーバーがWindowsの場合 zo365set.exe?cmd=o365psetuserentry のみ入力してください。 ⚠️ クラウド版の場合は、Linux (zo365set.cgi) となります。
③アクセス権設定	各ユーザーが設定を行えるよう、「 Everyone 」ロールを設定します。

- ④ 「オプションメニュー設定」で作成したオプションメニューをポータル画面のメニューや、画面左端のパレットメニュー上に配置し、ユーザーへ設定依頼をしてください。

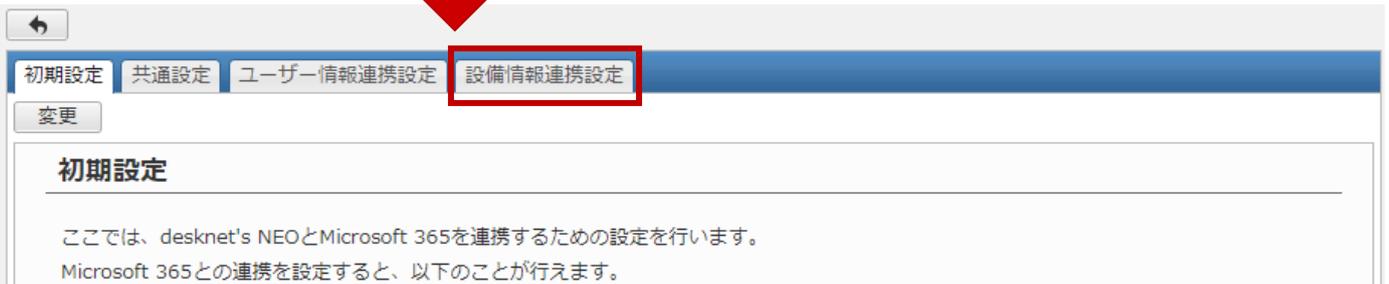
📖 関連FAQ

- [作成したオプションメニューを表示させる方法](#)

7. 設備の連携設定を行う

desknet's NEOに登録している設備とMicrosoft365で設定している設備も同期対象としたい場合、こちらの設定が必要になります。

- ① Microsoft 365連携 設定画面の「**設備情報連携設定**」タブを選択してください。画面を閉じてしまった場合は、再度「[2.設定用のオプションメニューの作成](#)」で作成したオプションメニューからアクセスください。



管理者による事前準備

- ② desknet's NEOの「設備予約」に登録されている設備名が表示されます。連携を設定する**設備名**をクリックします。

The screenshot shows a web interface with a top navigation bar containing tabs: 初期設定, 共通設定, ユーザー情報連携設定, and 設備情報連携設定. Below the tabs, there are two buttons: 組織選択 (すべて) and (設備グループ選択). The main content area is a table with two columns: 設備名 and メールアドレス. The first row has '大会議室' in the 設備名 column, which is highlighted with a red box. The second row has 'マシン室内 商談机'. The bottom right corner of the table area shows '全2件'.

- ③ Microsoft 365の会議室が持つメールアドレスを入力し、**【変更】ボタン**をクリックします。

The screenshot shows a form titled '設備毎の連携設定'. It has two buttons at the top: 変更 and キャンセル. The form contains two fields: '設備名 : 大会議室' and 'メールアドレス : [redacted]@[redacted].onmicrosoft.com'. The email address field is highlighted with a red dashed box. At the bottom of the form, there are two buttons: 変更 and キャンセル.

- ④ 設定が完了すると、設備一覧の「メールアドレス」欄にMicrosoft 365側の会議室のメールアドレスが表示されます。

The screenshot shows the same web interface as in step 2. The table now has the email address '[redacted]@[redacted].onmicrosoft.com' in the 'メールアドレス' column for the '大会議室' row, which is highlighted with a red box. The 'マシン室内 商談机' row remains the same. The bottom right corner of the table area shows '全2件'.

8. Microsoft 365関連のメニューを追加する（任意）

desknet's NEOのメニュー内に、普段ご利用いただいているMicrosoft 365アプリケーションをお好みに応じて追加してください。

※desknet's NEOのログイン画面にある【Microsoft 365でログイン】よりログインいただくことで、本設定のアイコンより各Microsoft 365アプリケーションにサインオンせずにご利用いただけます。

- ① 下記のオンラインヘルプ「[Microsoft 365連携使用前の初期設定方法](https://www.desknets.com/neo/help/ja_JP/admin/instaft/o365.html)」に掲載されているMicrosoft 365アプリケーションのアイコンをマウスの右クリック→「名前を付けて画像を保存」で、ローカルPC内に保存してください。

https://www.desknets.com/neo/help/ja_JP/admin/instaft/o365.html

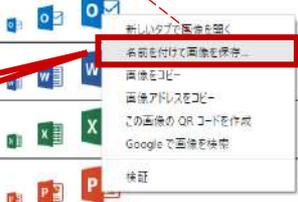
2. Microsoft 365関連のメニューを追加する（任意）

オプションメニューに、お使いになりたいMicrosoft 365アプリケーションのメニューを追加します。

メニュー名（例）	URL入力値	
Outlook	https://outlook.office.com	
Word Online	https://www.office.com/launch/word	
Excel Online	https://www.office.com/launch/excel	
PowerPoint Online	https://www.office.com/launch/powerpoint	
OneNote	https://www.office.com/launch/onenote	
Microsoft 365	https://www.office.com/	

（スライドメニュー用、パレットメニュー用、ポータルメニュー用）

保存したいアイコンの上にマウスカーソルを乗せ右クリック



名前を付けて画像を保存...

- ② ご利用中のdesknet's NEOにシステム管理者ユーザーでログインしてください。
- ③ 管理者設定 > メニュー設定 > オプションメニュー設定へ移動し、【オプションメニューの追加】ボタンを押してください。

管理者設定 > 運用設定 > メニュー設定 > オプションメニュー設定

設定機能： 管理者設定

メニュー基本設定 | パレットメニュー設定 | 共通パレットメニューデザイン設定 | desknet's NEOメニュー設定 | オプションメニュー設定

オプションメニューの追加 | 表示順変更 | 削除

全14件

<input type="checkbox"/>	表示	メニュー名/URL
<input type="checkbox"/>	表示	ユーザーサポート窓口 https://ssl.neo.co.jp/desknets/neo/support/inquiry/cl/index.php?Qcompany=\$CNAME&Qdepartment=\$ONAME&Q...
<input type="checkbox"/>	表示	FAQ https://www.desknets.com/neo/faq/result/5767/
<input type="checkbox"/>	表示	ChatLuck

④ 下記の必要事項を入力し **【追加】ボタン**をクリックしてください。

管理者設定 > 運用設定 > メニュー設定 > オプションメニュー設定

設定機能: 管理者設定

追加 キャンセル

オプションメニューの追加

メニュー名(*) : Outlook ①

URL(*) : https://outlook.office.com ②

アクセス権設定: ユーザー/組織/ロール選択 Everyone

表示/非表示: 表示

アイコン: スライドメニュー: [画像を変更する](#)

パレットメニュー: [画像を変更する](#)

ポータルアイコン: [画像を変更する](#)

メニュー: [アイコンを選ぶ](#) [画像をアップロードする](#)

▼画像を変更する → 画像をアップロードから、①で右クリック保存したアイコンを設定

メニュー名 (例)	URL入力値
Outlook	https://outlook.office.com
Word Online	https://www.office.com/launch/word
Excel Online	https://www.office.com/launch/excel
PowerPoint Online ①	https://www.office.com/launch/powerpoint ②
OneNote	https://www.onenote.com/
Microsoft 365	https://www.office.com/

⑤ 「オプションメニュー設定」で作成したオプションメニューをポータル画面のメニューや、画面左端のパレットメニュー上に配置し、ユーザーへ設定依頼をしてください。

 **関連FAQ**

- 作成したオプションメニューを表示させる方法



改版履歴

- 2025年1月30日 第3版
- 2024年4月01日 第2版
- 2023年7月31日 第1版

株式会社ネオジャパン

〒220-8110 神奈川県横浜市西区みなとみらい 2-2-1 横浜ランドマークタワー10階

 クラウド版カスタマーセンター

0120-365-800

営業時間：平日9:00～17:30（土日祝日、弊社指定休日を除く）

 メールでのお問い合わせ

cloudsupport@desknet.com

